

○平成29年度奨励研究

「茨城県小中学校における神経発達障害(自閉症スペクトラム障害等)の実態調査」

付属病院 准教授 中山智博

1. 研究目的

神経発達障害(自閉症スペクトラム障害等)児は世界的に毎年急速に増加している。2004年度の自閉症協会の調査では神経発達障害は約1%とされたが、2012年度での文部科学省の公立小中学校の約5万人を対象とした調査結果では6.5%であった。一方知的障害者は内閣府の発表では、人口千人当たり4人となっている。

つくば市を例とすると、小学児童および中学生徒はそれぞれ13014人、6244人である。これより神経発達障害児童・生徒はそれぞれ846人、406人、知的障害児童・生徒は52人、25人と算出される。つくば特別支援学校の知的障害教育部門(知的障害および神経発達障害が対象)の定員は児童97人、生徒74人である。知的障害児童・生徒は主に支援学校を利用している。このため残余の児童45人、生徒49人は神経発達障害児童・生徒であると考えられ、普通小・中学校に在籍する神経発達障害児童・生徒は、801人および334人と考えられる。つくば市の小学校は36校・326学級、中学校は14校・157学級であるため、神経発達障害の児童・生徒は1クラスあたりそれぞれ3人、2人いると算出される。

付属病院小児科は茨城県発達相談支援事業をにない、竜ヶ崎保健所、鉾田保健所、潮来保健所等で発達相談を行っている。地域の保健師との情報交換を同時に行っているが、これらの地域ではクラスあたり半数が特別支援教育の利用を希望している学校があるとのことであり、地域格差があることが推測される。地域格差が本当にあるかどうかを検討するため、茨城県の当該地域で神経発達障害児童・生徒数を調査することとした。

2. 研究方法

「自閉症スペクトラム指数(AQ)」はBaron-Cohenらにより個人の自閉症傾向を測定する目的で2001年に開発された。高機能自閉症やアスペルガー障害を含む自閉症スペクトラム障害のスクリーニングにも使用できることが特徴である。研究および臨床の双方で国際的に使用され、児童用が2006年に、そしてWakabayashiらにより「AQ日本語版 自閉症スペクトラム指数(児童用)」(以下AQ日本語版 児童用)が2007年、標準化作業の後に作成された。この児童用は50項目からなり、対象者について良く知っている他者(保護者等)が、「あてはまる」から「あてはまらない」までの4段階で評価する。カットオフ値は25点で、定型発達の3.8%のみが25点以上を示すとされている。

この「AQ日本語版 児童用」を用いて評価を行う。対象は竜ヶ崎保健所管内(龍ヶ崎市、取手市、北相馬郡、牛久市、守谷市、稲敷市、稲敷郡)等の2市町村程度の児童・生徒である。各市町村教育委員会及び保健所、社会福祉協議会と協議し、無作為抽出された7-800名程度の児童・生徒を対象に、各市町村小中学校教諭の協力を得てAQ日本語版 児童用を実施する。対象となる児童生徒名は無記名とし、個人を特定できないように配慮する。AQ得点を算出し、神経発達障害の児童・生徒数を求める。

3. 研究結果

関係諸機関と現在調査方法につき調整中である。

4. 考察(結論)

本研究では対象地域・者が限られている。このため、本研究での結果のみで地域格差の有無を結論することはできない。本研究の結果を元に、ある程度の規模が大きい調査へ進めていきたい。

しかしながら、当該地域に必要な教諭数(児童生徒8人に対し教諭1人が必要)を算出することができる。当該地域への特別支援教育の適正化に寄与できると考えられる。

5. 成果の発表(学会・論文等, 予定を含む)

今後の研究成果を、小児神経学会等で発表する。

6. 参考文献

Baron-Cohen S, et al. The autism-spectrum quotient (AQ): evidence from Asperger syndrome/high-functioning autism, males and females, scientists and mathematicians. *J Autism Dev Disord.* 2001;31:5-17.

Baron-Cohen S, et al. The Autism-Spectrum Quotient (AQ)--adolescent version. *J Autism Dev Disord.* 2006;36:343-50.

Wakabayashi A, et al. The autism-spectrum quotient (AQ) children's version in Japan: a cross-cultural comparison. *J Autism Dev Disord.* 2007;37:491-500.